

佐々井利夫先生のご定年によせて

板 野 和 彦

佐々井利夫先生のご定年を迎えられることで、年月の流れがあまりに速いことを強く感じております。先生は40年以上の長きにわたり、明星大学を支え、今日の発展へと導かれた方であり、そのご功績の全てを記させていただくことはもとより難しいと存じますので、恐縮ながら、その一部をお伝えすることと致します。

佐々井先生は昭和50（1975）年に明星大学図書館嘱託および明星中学校講師として赴任され、翌年より図書館業務に専念されました。早稲田大学の文学研究科に学んでおられた先生が本学にいられたのは、早稲田大学で教授をされていた兄玉三夫先生から直接請われたことでした。皆様ご存知の通り、明星大学の図書館はシェークスピアのファーストフォリオをはじめとして、世界的な貴重書を多く所蔵しており、これは「学生は学ぶ際に本物に触れなくてはならない。」という兄玉先生の信念に基づくものでありました。佐々井先生はこれらを含む多くの図書の整備、それらを活用した大学の広報等の業務にあたられ、一方で教育学及び図書館学の授業もご担当されました。図書館学についてはご自身で先ず勉強され、司書資格を取得され、ご指導にあたられたとのことで、何事もゆるがせにされない先生の御人柄を知ることのできるエピソードであると存じます。

昭和54（1979）年には人文学部心理・教育学科（教育学専修）の専任講師に、昭和57（1982）年には同学科助教授、昭和62（1987）年には教授に就任され、この間、教育現場およびその他の社会で活躍することになる学科学生の御指導と同時に、通信教育部のスクーリング、地方会場での授業、レポート採点など多くの職務をこなされました。先生の御仕事の正確さ、スピードは信じられないほどであったというレジェンドは、当時を知る職員各位によりしばしば語られるところです。

また、先生は昭和57（1982）年に論文「デューイの興味論」で日本デューイ学会において研究奨励賞を受けられました。一昨年には、同学会の第59回研究大会が明星大学で開催され、先生は準備委員長を務められました。

平成10（1998）年4月には人文学部心理・教育学科教育学専修主任、同年7月には通信教育課程長に着任され、先生が課程長御在任中の平成11（1999）年に通信制大学院が開設されました。明星大学の通信制大学院は、他の3大学院と同時に我が国で初めて開設されたものですが、これは大学院設置基準が平成10（1998）年に改正されたことにより可能になったものです。これ以前には通信制で学ぶことのできる大学院は日本にはなく、職業を持った者が大学院で学びたいと希望する場合には、海外の通信制の課程で学ぶか、職業を辞するかしか選択肢がありませんでした。そのようなわけで、新たに設置された折には全

国から、この学ぶ機会を待っていた多くの人たちが明星大学通信制大学院を志望して集まりました。そして修了後には専門学校、短期大学、国公立も含む大学の教員として活躍する者も多く、明星大学に対する全国的な評価の大切な一部となっていると考えられます。佐々井先生はこの通信制大学院を通信教育課程長として主導され、同時に講義科目、演習を直接担当されました。

当時の佐々井先生の演習では、通信制であるにも関わらず、先生のご厚意で、月1回対面でのご指導を頂く機会がありました。ゼミ生のほとんどが専門学校・短期大学・大学の現役の教員で、仕事の合間を縫って北は東北、南は九州から駆けつけ、毎回長時間に亘る発表とそれに対する先生の御講評という流れでのご指導を頂き、その後には居酒屋でまたそれぞれの研究についての話し合いを行うという充実ぶりでした。まさに本学の校訓である「人格接触による手塩にかける教育」そのものでありました。

平成24（2012）年から2年間、教育学部学部長を務められ、学部の充実と発展に寄与され、平成27（2015）年からは副学長として主に通信教育部の改革と発展に尽力されました。

先生は本学の創立者である児玉九十先生、児玉三夫先生の教育理念を伝えてくださる方であり、教育において「学生の満足度」ということを常に念頭においておられるように思います。かつてない程少子化が進み、大学の淘汰がいわれる昨今、私たち大学の教職員が真剣に考えるべきことであると思われます。

これまでの佐々井先生の御指導に感謝申し上げるとともに、先生とご家族の皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。